

バンガラデシュと手をつなぐ会

ミロン

No. 83

AUGUST 2000

ミロンとは、「一つになる」「手をつなぐ」という意味のベンガル語です。

アジアの子どもたちの未来のために

Bangladesh と手をつなぐ会へ
あなたも参加してみませんか

「Bangladesh と手をつなぐ会」では、Bangladesh・カラムディ村で、現地の村人による開発のための委員会「シヨングニ・シヨNSTA」と協力して、＜教育＞と＜医療＞の分野で次のような支援活動を行っています。

【教育】分野では…

将来を担う子どもたちの
教育の普及と向上のために

- ① 小学校の建設(1987～89年)とその後の運営支援
- ② 貧しくて学校に行けない子どもたちへの奨学金制度
- ③ 職業訓練(ミシン)で技術を身に付ける
- ④ 教科書図書館(教科書が買えない中学生のために、教科書の貸し出し)
- ⑤ 教育教材(特に理科など)学校設備の充実

【医療】分野では…

命と健康を守るために

- ① 母子保健センターの建設(1995年)とその後の運営支援
- ② 医療設備の充実
- ③ 緊急患者対応のために救急車の配備
(1998年～)
- ④ 現地医師、看護婦のための訪日研修
(1995～97年)
- ⑤ 出産前の女性への母親教室
- ⑥ 村の保健衛生向上のための巡回検診と衛生指導

国内活動では…

- ① 会報誌『ミロン』の発行
- ② 定例会の開催(いろんな学習、イベントなどの参加型学習会)
- ③ 現地訪問の報告書作成と記録ビデオの制作
- ④ 現地訪問の報告(職場や地域などで)
- ⑤ チャリティコンサートおよびバザー
- ⑥ 総会(毎年4月、予算・決算と活動方針などの決定など)

その他、
夏の現地訪問
冬のスタディツアーを
行っています。

Bangladesh と手をつなぐ会

代表 大木松子

〒810-0004 福岡市早良区西新5-4-20

電話:092-844-1369 ファックス:092-781-9658

<http://www1.doc-net.or.jp/~minosaka/bangladesh-top.htm>

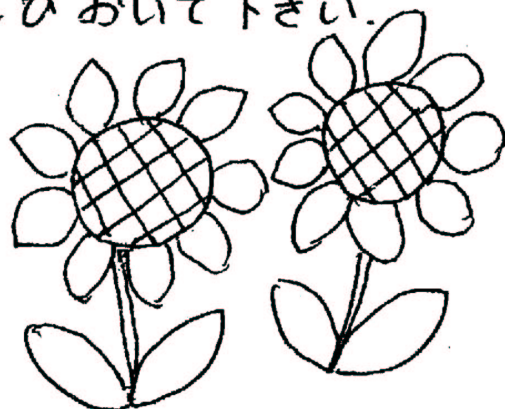
楽しかった現地訪問

ことし夏の現地訪問は若い人、はじめての人がほとんどでした。村の中学生や若い人が大歓迎、まず少年のひとり芝居、そしてすてきなコーラス。医療の方も熱心で、診察や訪問が続けられていました。

毎年新しいメンバーが村を訪問して交流を深め広げたいと思います。と一緒に現地訪問しましょう。

ことしの現地訪問報告会は下記の通りです。
お友だちやご家族も一緒にぜひおいで下さい。

大木松子



NO. 83 AUGUST 2000		もくじ
P1. 大木代表より/もくじ	P8. 長崎チャリティーコンサート報告 / 7月定例会報告	
P2. カラムディ村最新情報「医療」	P9. バングラ雑貨店/カラムディ喫茶	
P3. カラムディ村最新情報「教育」	P10. 教育キャンペーン2000/バザー のお礼	
P4~5. 初訪問で何が見えた?	P11. 会計報告	
P6. 「声」 VOICE FROM KARAMDI	P12. 今後の行事予定/編集後記	
P7. 「楽しみながら続けたい！」 長崎MCHを支援する会 河内英一		

カラムディ村最新情報

2000年 現地訪問報告

医療班は、ニノ坂（医師）・高橋（看護婦）・森万祐子（看護学生）の3人。毎日、熱心な話し合いを行い、村の保健医療の将来について共に考えました。

現在のMCH（母子保健センター）

スタッフは、医師2名、看護婦4名（准看2名を含む）、トレーニングナース5名、薬局&レントゲン担当1名、検査技師1名、受付・用務員4名。昨年からの彼らの希望でもある、村の女の子達に働きながら医療の知識や技術について学ばせるという見習い看護婦（トレーニングナース）が加わっていました。

MCHの業務は、外来は順調、入院患者数は増えています。妊婦検診や出産数の減少が気になりました。救急車はフル回転で、皮膚縫合や、できものを取るなど簡単な手術は行われています。しかし、何しろスタッフが変わったばかりでこれからという段階のようでした。

これからの課題

MCHスタッフやシヨングダニの間でも、目的・意識の統一が常に、必要！

新しく着任したDrロコムは以前勤務していた病院が、120年の歴史を持つCommunity-Based hospital（地域社会・住民を主体にした病院）でした。「MCHの目的も同じだ、みんなでもっと勉強して、村人中心のものを目指そうではないか」とDrロコムが訴え、みんな賛成。利益を目的とするのではなく、病気を予防し、村人が健やかに生きていけるよう目的の一つにできれば、これから長い年月の間に、もしスタッフが変わってもMCHは変わりなくありつづけていられるでしょう。

MCHの体制づくりを！

1、役割分担一連帯を

現在、MCHで「裸足の医者」に対して医療の勉強会を毎月行っています。彼らとの会合で、「医者と呼ばれるが資格も持っていないし、ほとんど知らない、もっと教えてほしい」「声をかけてくれてうれしい。これからも協力したい」と前向きな意見が聞かれました。MCHだけでは村人の病気の予防・治療はできません。Drロコムは、村にサテライトクリニックという出張診療所のようなものを3つほどつくり、効率よく人を集めて保健衛生の話をしたと言っていました。他に、産婆さんの教育も必要です。それぞれが役割を考え医療に携わる者すべてで協力し、前進していくことが必要です。

2、看護婦に求められるもの

MCHでの出産数が減っています。多くの問題がからんでいます。妊婦検診、出産、巡回検診など母親と関るのはすべて看護婦で、看護婦の役割が非常に大きいといえます。村人の意識改善、衛生指導、出産に関する教育など課題は山積です。看護婦の意識の向上、看護の質の向上、看護婦のさらなる努力が、これからの課題です。

3、やっぱり一番大切なのは村人の声！

私達の村の滞在は実質5日間でしたが、村に3日出かけ、村人の声を聞きました。去年とは違いMCHの評判は良いものへと変わっていました。シヨンダニやMCHに対する疑問の声もありましたが、シヨンダニの会長や運営委員がいっしょうけんめい一つ一つ答えていて、解決できていました。何よりも、「疑問をぶつける、答える、理解しあう」という本来あるべき姿に感動し、こういった村人の意に沿った活動をやっていたら間違った方向にはいかないだろうと感じました。村人が「去年よりシヨンダニが村に出てきてこうやって話を聞いてくれる」と言っていました。シヨンダニの1年の苦労と努力が見えうれしい思いでした。

◎現地訪問報告会では、がんばっているスタッフの横顔や、村人の生の声をもっとお伝えしようと思っています。ぜひ、ご出席下さい！ (高橋かおり)

教育班は、大木・ラフマン・臼井・上田平の4人。今回は、教育部門での課題がはっきりしたことがひとつの成果でした。以下の3点絞って報告します。

長期欠席者の問題と、それに対する取り組み

長期欠席者の多さはここ数年の大きな課題です。カラムディ中学では、去年は欠席率が平均44%でしたが、今年はそれを42%にするという目標を掲げていました。教師たちが自分の家の近くの欠席児童たちに声をかける、学校へ報告、小中学校と連絡を取り合う、という方法が少しずつとられるようになりました。しかしまだシステムが整っているとは言えず、そのやり方も人によって偏りがあるようです。また、長期欠席の背景となる、経済的貧困・早期結婚・親の教育の不足・その結果としての子どものやる気の無さなどの課題は、社会的に取り組んでいくべき課題でもあります。

教育の質・教師のやる気

ジャパニ小学校の教師の問題は去年も指摘しましたが、全体的に教師の質・やる気に問題があるように見えました。教育は何よりも、子どもたちの成長を願ってのものです。しかし、数回の話し合いで、教師の側からそのような熱意はあまり感じられませんでした。教師自体の教育の不足・十分な給与が保証されないなどの問題もあります。しかしまず、子どもたちにどのような教育を行いたいのか、どんな国や社会をつくって子どもたちに手渡したいのかという教師たちの願いや意気込みが教育の根底にあるべきではないか、と強く感じました。

教師集団の中でのリーダーシップ

長期欠席の問題・教師の質の問題・カリキュラムの改善など教育の改革を行っていくには、教師集団の協力が不可欠で、そのためには教師の中のリーダーが必要です。母子保健センターでのロコム医師、シヨンダニにおけるカシエムやザフォルのようなリーダーが教育においても必要です。私たちが見る限り、そのようなリーダーの不在が感じられました。

村人との集会での、「教師を変えていくには、自分たちが変わらなければならない。自分たちが働きかけいかなければならない」という発言が心に残りました。村人たちは自分の子どもたちのために何を残すことができるのか、真剣に考え始めています。

初訪問で何が見えた？

今年の初参加者は、3人の若い女性。それぞれがそれぞれの感想や思いを持つての帰国となったようです。ふむふむ。なるほどね。

上田平 ひとみ
UETABIRA HITOMI



「どんな子どもを育てたいですか？」
二ノ坂医師の質問で先生や運営委員会のメンバー達の中になにかが甦ったような感じがした。教育をする側の基本的な方針とも言うべき問いかけで、一番イメージしやすい質問だったように思う。

私は、今回初めて、現地訪問の教育班として参加させてもらった。鹿児島に住んでいるという事もあり、会の存在や、現地訪問についても友達を通じて知った。私の仕事は教育にも医療にも関わりが無く、実のところ、「バングラデシュ」というほとんど情報が入ってこない国に対しての興味と NGO 活動への興味が訪問の動機の大部分を占めていた。

活動内容を大きくいうと午前中は長期欠席者の家庭訪問と学校訪問、午後からは運営委員会等との話し合いだった。冒頭の質問は終わりのほうの話し合いで出てきたものだった。それまでの話し合いでは、(通訳してもらった限りでは)何か柱がズレているようなそんな気がしていたのだが、そこが抜けていたのか…。

目の前の問題解決だけに追われて、基本的な所がいつのまにか抜けていることが私達の中でもあると思うが、人に言われてそれに気づかされる。

日本と比べ村役場も無く、政府の力も

及ばない地域で、文化や宗教も違うカラムディ村に対して、シヨンダニの役割・位置づけはイメージしにくいですが、今回の訪問を通して、村の中でかなり大きい力を持っていることを感じた。それだけに、シヨンダニという組織が基本方針を持った上でどう行動し、その行動は組織の上でどういう位置を占めるかということを中心に把握しておくことは必要だとも感じた。

同じ様に教育も長期欠席者の家庭訪問により状況を把握することも大事だが、学校教育の質などいろんなところにこれからも力を注いでいけるように考えなければいけない。また、各学校での取り組みは勿論、各学校間のつながりをシヨンダニがどう持たせていくかなどシヨンダニ、手をつなぐ会でも勉強する必要があるのではないかと思った。

最後に、今回の現地訪問は会に対して直接的な貢献が出来なかったことは申し訳無かったのだが、私自身、「これ」と確固たるものはないが、何か沢山得るべきものがあつた様な気がしている。また、今後とも、会に対して、遠い所からではあるが影ながら応援していきたいと思っている。

臼井 久美
USUI KUMI



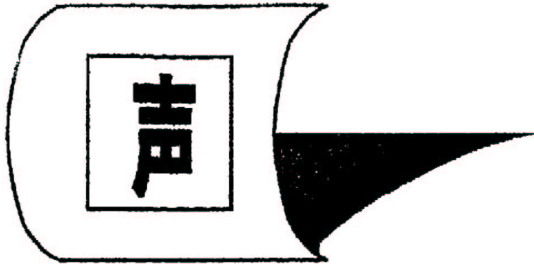
「バングラデシュに行ってみませんか？」祖母の往診に来てくださるあやしいお医者さん（笑）に誘われて、私は生まれて初めてバングラデシュを訪れた。カラムディ村はどこまでも続く緑の大地で、豊かな自然と温かい人々であふれていた。私は語学の心得も医術の心得もなく、ただ好奇心だけで皆について来た。そんな私が今回参加した仕事は、主に小・中学校の長期欠席者の家庭訪問に、炎天下、ついてまわることであった。欠席の理由は様々で、結婚させられた女子中学生、経済的に苦しい家庭の子、やる気のない子、親を手伝わなければならない（母親の育児、父親の農作業等を）子、などなど、色々な子どもがいた。日本では考えられないような状況である。家庭訪問の責任者のラフマンさんは、一人一人と対話を重ね、「明日から通学するように」と悟っていた。この地道な努力が実を結び、子どもたちが一人残らず質の高い教育を受けられ、この国が発展する日が来ることを願わずにはいられない。バングラデシュは私たちに生きることの意味を考えさせてくれる国だ。決して教えてはくれない。ただただ考えさせられる。そういう国だと思った。

森 万祐子
MORI MAYUKO



大学生生活最後の夏休み、発展途上国で実際に看護をしたい、という気持ちから、現地訪問に参加させていただきました。私は医療班ということで、現地では母子保健センターにて入院患者を3人受け持ち、看護をさせてもらいました。活動を通して考えたことは、私たちは国籍が違っても同じ人間であり、人間のからだのメカニズムを知っていれば、どんな患者が相手でも、看護はできるということ。はじめは言葉が通じないという理由で、コミュニケーションの難しさを強く感じたのですが、看護は無限大のアプローチがあり、理解しようという気持ちがあればなんとかなるのだと思いました。無意識のうちに、違う国の人には、理解不可能な人というイメージがあり、自分自身の中に大きな壁があったということに気づくきっかけとなりました。

経済的に貧しいバングラデシュ人の心が豊かなのか貧しいのか、それは分からないけれど、満点の星空に見た流れ星にもしも力があるのなら、小さな幸せを多くの人に降らせてほしいと、そんな願いを込めたくなるような、現地訪問となりました。



VOICE FROM KARAMDI VILLAGE

NO.1

ナシマ・アクタル

カラムディ中学校 9 年生 女子

バングラデシュは第三世界の発展途上国。

この国は 1971 年に多くの夢を抱えて独立国として生まれた。68,000 村のひとつ、カラムディ村—そこに私は住んでいる。

バングラデシュのほかの村と同じように、この村にも貧困、失業、早期結婚などの問題がある。才能を持って、目を輝かせて、多くの夢を持って…それが社会的な要因で 14、5 歳で夢を摘み取られてしまう。あらゆる夢を捨てて、他の人の奴隷になってしまう。そのとき、女の子には、自分のものとして何も残らない。若くして母親となり、周りの世界について考える力を失ってしまう。夢を見ていた少女は、意志の弱い、病弱な女性となる。こうなると何もやる気がなくなって、まるで植物状態となってしまう。社会に貢献するものは何も残らない。

幸い、私はそういう女の子と少し違う。私の父は、学校の先生。父は、私が高等教育を受けることを願っている。私は自己というものを捨てないで、1 人の完全に独立した人間として生きていきたい。1 人の女性としてではなく、ジャーナリストになって伝統的な社会を変えていきたい。

私たちの村には、毎年、光のように日本人がやってくる。毎年、私たちは彼らを待っている。他の年と同じように、今年も新しい顔がやってきた。彼らは私たちの学校に来て、いろいろと遊んでくれた。青空の下、私たちの行事にも参加してくれた。厳しい暑さの中で、学校のグラウンドで遊んだ。それは素晴らしい体験—。また私たちは意見交換をし、その時彼らは私たちと一体となった気がした。本当に彼らとの短い時間のふれあいを忘れることは出来ない。

私が明るい将来に向かっていくのも、これらの若い日本人にふれることや、彼らの話を聞いたから。彼らと私たちの協力で、私たちの社会の発展を実現し、よい社会を造ることが出来るだろう。

彼らの我慢強さ、勇気と個性が、私の前進の糧となっている。

「楽しみながら、続けたい。」

Bangladesh の母子保健センターを支援する会

河内 英一

数年前の同窓会で、二ノ坂君から医療ボランティアで Bangladesh に行っていることを聞きました。ペシャワールでライ撲滅の医療活動をしている福岡出身の医師の話をして聞いていましたが、身近の同級生が似たような活動をしていることに驚き、そして現地に建てた母子保健センターの運営で苦勞している状況を聞くにおよび、何か手助けできないか…と思ったのです。そしてその後、同級生が数人集まって、「母子保健センターを支援する会」が発足しました。

個人的には、それまでの人生で多くの人々から受けた広い意味での『愛』に応える年齢になり、これからは愛を与える人生を歩いていこうと思っていた矢先でしたので、事務局と会長を快諾しました。最初の一年間は見切り発車の状態でしたが、活動報告会を兼ねた第一回のチャリティーコンサートを開催する頃には、運

営委員の気持ちがひとつになり、予想以上の人々に来ていただき大成功でした。この6月10日には、第二回チャリティーコンサートを開催し、昨年より多くの観客に来ていただき、会員も1人、2人と増えていきます。

コンサートの出演者の協力が得られる間は、毎年続けたいと思っておりますが、暖かい気持ちで協力してくれる友人・知人には感謝あるのみです。

一番の苦勞を二ノ坂君をはじめ「手をつなぐ会」の皆さんに押し付け、私たちは大勢で騒ぎながら神輿を担ぐだけで、いつも心苦しいのですが、担ぎ手を1人でも多く増やし、皆とワイワイ楽しみながらこの「支援する会」を続けていこうと思っております。

母子保健センターを支援する会事務局

〒850-0045 長崎市宝町5-20

(有)まるか呉服店 河内英一

TEL&FAX (095)-844-0777

第2回 チャリティーコンサート

6月10日、母子保健センターの運営を資金援助する目的で、昨年同様、今年も格調高く、長崎市にある旧香港上海銀行ホールにてコンサートを開催し、福岡からは大木、二ノ坂、岩切、高橋かおり、ラフマン、シャヒダさん（ラフマンさんの奥方）の妹、宇治で報告と民芸品販売の応援に出かけました。

事務局、河内さんの挨拶に続き、この日のために瀬尾照明さんが作曲された『バングラデシュに寄せて』を宮坂純子さんがピアノ演奏。

つづいて田川和子さんのソプラノが弦楽四重奏（田川博之、浦島優子、梶耕輔、松崎千草、各氏）の演奏とともに開場を包む。

1時間にわたるコンサートの後、二ノ坂副代表の現地報告で全てを終了し、残ったわずかな時間で長崎の方々と交流をしてまいりました。

宇治松枝

7月定例会 報告

「いのち・開発・NGO Part II ～国際保健医療を考える」

2000年7月2日(日) 13:30-16:30 あいれふ8階 研修室にて 講演：二ノ坂 保喜

7月定例会では、去年に引き続き途上国の保健医療の現状にスポットをあてました。お話は、手をつなぐ会の医療エキスパート Dr. にのさか。

今回のキーワードは

プライマリ・ヘルスケア (PHC) と
必須医薬品 (Essential Drugs)

「PHC」とは、自分の健康を自分で守るための、安価、かつ自分たち自身で行える保健管理…というようなものだそうです。PHCの考え方は、医療ケアの十分でない途上国のみならず、薬漬け、病院漬けの先進国においても大切な考え方ではないかなと思いました。

また「必須医薬品」とは、最低限の健康維持のために必要な薬を指します。

途上国では何が必要な薬かも把握されていない一方、先進国では薬がありすぎて本当に必要な薬が分からなくなっている…という現状があるようでした。

会の後半では、二ノ坂さんのお話を踏まえ、カラムディ村の医療問題を考えてみました。

- ・ 母子保健センターが村人の健康管理の役割を十分果たせていないのではないか
 - ・ 村人が正しい保健知識を得られるための教育に力を入れる必要がある
- など、貴重な意見を頂きました。初参加の方も積極的に発言して下さい、実りある会となりました。

報告：古賀 南

バングラ雑貨店

MADE IN BANGLADESH

手をつなぐ会では、バングラデシュで買ってきた民芸品の数々を販売しています。売り上げは、現地 NGO [シンドンダニ・シヨNSTA] の活動資金として使われます。



夏にぴったり!

ジュート(麻)製のバック

サイズ(SIZE): 縦 51cm × 横 34cm

色(COLOR): ベージュ、オレンジ

価格(PRICE): 2000 円

* 形が違う(長方形)ものもあります。

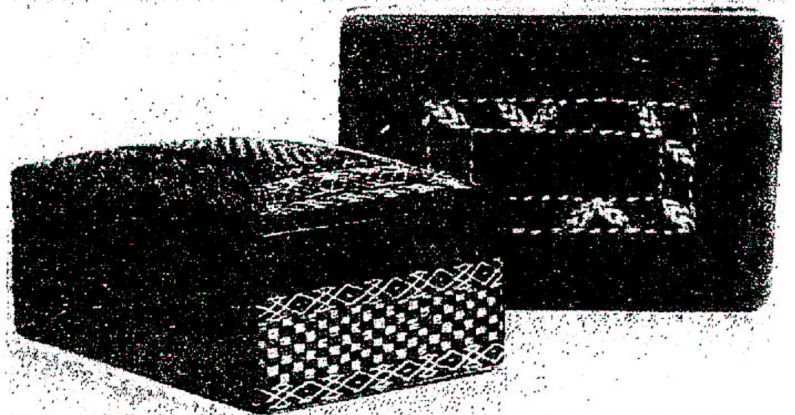
バングラの伝統 刺しゅう
子牛の革製刺しゅう入り小物入れ

サイズ(SIZE): 縦 9cm × 横 14cm
× 高さ 5cm

色(COLOR): 黒、赤

価格(PRICE): 2000 円

* 刺しゅう製品、いろいろあります。



これらの商品は、手をつなぐ会のイベント(報告会・定例会・バザー地球市民どんたく)などで販売しています。皆様のご協力をよろしくお願いします。

ちょっと一服しませんか? カラムディ村の喫茶店

古賀 南

突如始まった新コーナー。村人たちの生活ぶりを少しずつお伝えします。村の空気を感じて下さいね。

(その1) 村の小学生スタイル

村の朝、小学生たちが手に手に勉強道具を持って学校へ向かっていきます。カバンは持っていないか、しましまの(←なぜか必ず!)ビニール袋。筆記用具は鉛筆やボールペンを1、2本。ノートはわら半紙製です。

カラムディ村の小学校には、制服がありません。みんなカラフルなサルワ(女の子のワンピース)やズボンで、元気に歩いています。



～ 教育キャンペーン・2000年 ～

昨年度に引き続き、今年も教育キャンペーンを実施します。
目的は10年後の奨学金を基金の利子でまかなうためです。

現在奨学金として使われる金額は、年間約60万円です。
この費用を10年後には基金の利子でまかなえるように、
現地の自立の一環としての視点で、毎年積み立てて行く予定です。
今年度の目標額は、100万円です。
皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

バザーのお礼

ミロン5月号発送直後に行なったバザーの報告です！

5月21日（日）：今回は、いつもの西新商店街から場所を変え、早良区野芥の
にのさかクリニック前駐車場で行いました。

当日はお天気にも恵まれ、開始時間の一時間前からたくさんのお客さんが集まって
くださり、13：00開始の予定時間を15分も早めたほどの賑わいでした。

バザー収益金は、總計125,701円となりました。

みなさまのご協力に感謝申し上げます。

～ どうも有り難うございました！ ～

- ・バザー用品を提供して下さった方々。
- ・当日お買い上げ下さった方々。
- ・多量の販売品の値段付けと整理をお仕事のあとでして下さったにのさかクリニックの職員の方々。
- ・たくさんの数のお花を提供して下さった井口様、同時販売での収益金を寄付して下さったシーベスト野芥店様、駐車場を貸して下さったてんぐ屋様・かも川薬局様、ジュースの差し入れを下さったモスバーガー野芥店様、同時出店されたNGO団体：明日のカンボジアを考える会様、

本当に多くの方のご協力を有り難く思った日でした。

次回もよろしくお願いいたします

会 計 報 告

新会員ご紹介

(敬称略)

会 員

牛島 由紀子	福本 トミ子
森 万祐子	稲数 正子
臼井 久美	上田平ひとみ

募金協力者

富田 桂子	望月 銀子
川口 純廣	シーベスト野芥店
野口 幸子	江崎 綾子
乙幡 義子	大浦 エミ子
安永 好子	井上 稲子
松村 祐二郎	大賀 久美子
前田 寿子	川西 薫
岩月 マリ子	川瀬 京子
小川 宮子	下村 美智代
合澤 英夫	吉原 美好子
村里 やよい	柿木 千鶴子

バングラデシュの母子保健センターを
内村 ハツ 支援する会

伊吹 由歌子	志満 てい子
松本 幸子	江上 暁子
白木 ミサオ	宮本 キクエ

にのさかクリニック窓口募金
今給黎 靖子 竹田 照

古川医院：古川文隆

松隈 博子	松浦 孝道
相賀 節子	高橋 大貴

教育募金協力者

(敬称略)

森本 宗子 小澤 逸君子

旅費カンパ協力者

福本 トミ子	鹿子島 スエヨ
丸尾 トシエ	母里 マサヨ
熊谷 三代	山口 マツヨ
井口 ミツノ	桑代 美利
桑代 郁子	水山 マサコ
金光 英雄	田代 カメヨ
松山 憲正	山崎 博敏
友池 ユキ	池田 久良治
浜谷 静枝	西 浩子
水谷 巖	福元 国次
瀧本 康子	安永 好子
松成 壽子	相川 幸子
山下 久代	古金 博子
今給黎 靖子	竹田 照
八木 良子	田中丸 節子
村里 やよい	

高橋 かおり	森 万祐子
上田平ひとみ	臼井 久美
二ノ坂 保善	

皆さまのご協力に
感謝申し上げます。
どうも有難うござい
ました！

今後の行事予定

(変更することがあります。ご確認下さい。)

月 日	時 間	内 容	場 所
9月7日(木)	19:00～	事務局会議	にのさかクリニック
9日(土)	13:30～ 16:30	定例会「ふたたび 教育を考える」 ～バングラデシュから日本へ～	アクロス福岡 3階 こくさいひろば
21日(木)	19:00～	運営委員会	西新事務所
30日(土)	13:30～ 17:00	地球市民どんたく 2000 「広域地域リーダー国際化セミナー」 パネルディスカッション&分科会(要申込み)	天神ビル 11階
10月5日(木)	19:00～	事務局会議	にのさかクリニック
14日(土)	11:00～	地球市民どんたく 2000	ソラリアプラザ 1階
15日(日)	18:00	「NGO 活動紹介ブース&ステージ」	ゼファ
19日(木)	19:00～	運営委員会	西新事務所
22日(日)	13:30～ 16:30	2000年 現地訪問報告会	アクロス 福岡 605会議室
11月2日(木)	19:00～	事務局会議	にのさかクリニック
16日(木)	19:00～	運営委員会	西新事務所
19日(日)	13:00～	恒例！ チャリティーバザー	にのさかクリニック前 駐車場
27日(月)	19:00～	ミロン印刷作業	にのさかクリニック
30日(木)	13:00～	ミロン発送作業	西新事務所

*9月30日のセミナーの参加申込み・詳細は、9月1日号の市政だよりをご覧ください。

編集後記と特別感謝

あちちち。毎日熱帯なみの暑さが続いています。皆さんお元気でしょうか？まずは、前回より装いを新たに「ミロン」にたくさんのご意見をいただき、本当に有難うございました。誤字・脱字の訂正までしていただき、恐縮です。ハイ。今後ともご協力のほどをよろしくお願いします。それから、長崎の母子保健センターを支援する会の皆さん、チャリティーコンサートの成功おめでとうございました。いつもご協力いただき感謝しています。

さてさて、2000年の現地訪問も終わりました。とりあえず参加者はみんな無事に帰国ということで。現地のあちちにも負けなかったというのは、すごいなあと感心。詳しいことは実は私も聞いていないのです。そういうことなので、報告会には行かなくちゃなあ。10月22日か…さすがに涼しいでしょう。皆さんもどうですか？最後に今回も、皆さんからのご意見・ご感想・苦情その他いろいろお待ちしております。(D)

入会のご案内

Bangladesh と手をつなぐ会に あなたも参加してみませんか？

「 Bangladesh と手をつなぐ会」では、 Bangladesh ・カラムディ村の
＜教育＞と＜医療＞への協力活動を支援くださる会員を募集します。

- 会 員 会の運営にかかわり、手伝いたい方：総会での議決権を有します。
会費： 月額 500円（年額6000円）
- 協力会員 会の趣旨に賛同し、協力する個人または団体の方。
会費： 一口月額1000円（年間12,000円）…何口でも結構です。
- 会費振込先 郵便振替口座 01720-2-10442
加入者名 Bangladesh と手をつなぐ会

入会をご希望の方は、以下の用紙にご記入の上、郵送またはファックスでお送りください。

..... きりとり

Bangladesh と手をつなぐ会：入会申込書

申込み年月日 年 月 日

フリガナ

氏 名 _____ (男・女)
生年月日 明・大・昭・平 年 月 日 (才)
職 業 _____ (差し支えなければご記入ください。)
住 所 郵便番号 _____
電話・ファックス _____

(会員 協力会員)として入会を申し込みます。

会費は _____ 年 _____ 月分 から _____ 年 _____ 月分までの

_____ 円を (直接 郵便振替で)納めます。

イベントのおしらせ

シンポジウム ふたたび・教育を考える 地域が育む、地域が育つ ーバン格拉デシュからの提言ー

主催：バン格拉デシュと手をつなぐ会 & 地球共育の会ふくおか

共催：NGO 福岡ネットワーク 後援：福岡市教育委員会

教育シンポジウム第2弾、今回は教育における地域の役割を探ります。
バン格拉デシュの様子から、また日本での実践例から、地域と教育のつながりを考えてみませんか。たくさんのご参加をお待ちしています！

日時：2000年9月9日(土) 14:00～16:30

会場：アクロス福岡 3階 こくせいひろば

(福岡市中央区天神1-1-1、地下鉄「天神」駅より直通)

資料代：500円

出演：高瀬 雄大 (前原市立南風小学校勤務6年生担任)

ラフマン・モクレスール (バン格拉デシュと手をつなぐ会)

吉野あかね (地球共育の会・ふくおか)

司会：古賀 南 (バン格拉デシュと手をつなぐ会)

2000年度 現地訪問報告会

今年の成果をみんなで聞こう！！

毎年恒例の報告会です。ふるってご参加ください。



日時：2000年10月22日(日) 13:30～16:30

会場：アクロス福岡 6階 605会議室

(福岡市中央区天神1-1-1、地下鉄「天神」駅より直通)

入場無料。